

有料化実施に関する審議会委員の意見

1. 有料化するごみの種類

- 分別促進の観点からペットボトル等資源化するごみは有料化すべきではない。
- 可燃ごみの有料化は時期尚早であり，追加袋と資源ごみの有料化を実現してはどうか。

2. ごみ減量について

- ごみ減量に頑張ればごみ袋使用枚数は減る。ごみ袋の有料化によりごみ排出量を減らすという考えもあるが，八尾市はもっと市民にごみ減量について啓発すべきではないか。
- ごみに関しての町会の関わりはごみ袋の配布だけではない。ごみ減量に町会がどうかかわるかが重要である。
- 市がごみの減量講習会を町会で積極的に開催してもらえると参加者数も増え、よい啓発になる。
- ごみ減量と有料化はつながっている。町会の回覧板等を活用して有料化の必要性を市民に伝えて欲しい。

3. ごみ袋の大きさについて

- 袋の製作費が同じなら大は小を兼ねるので大きい袋の方がよい。
- 町会経由の配布では家庭で必要な大きさまで把握できない。一つの大きさなら大きなごみ袋でよい。
- 大きすぎる。半分以下でもごみ収集に出されている。排出量に応じてごみ袋の大きさが選択できることが望ましい。
- 2種類ぐらいの大きさが必要である。
- 大きい袋 20 円/枚，小さい袋 10 円/枚のように，大きさ別に価格差をつければ，ごみ減量の行動に結びつくのではないか。
- ごみの減量化の推進に向けて，小さい袋は無料で配布し，大きい袋は追加袋として有料で購入してもらえばどうか。
- 分別のごみ種毎にごみ袋を用意するのではなく，ごみ種共通のごみ袋とするがいくつかのサイズを用意することにより，ごみ量に応じた適正な大きさのごみ袋が使い無駄がなくなるのでは。
- 袋の大きさについては人によりけりである。
- 8種類の袋の色を変えており，何を出す日か判断している人もいるので同じ袋にする場合は十分な啓発が必要である。

4. ごみ処理費用負担の公平性の確保について

- ごみを多く出す家庭がごみ袋の一定量の無料配布枚数を超えた場合は、無料配布ではなく有料にして負担の公平性を確保すべきである。
- 多くの委員が意見を述べているように現在の追加袋は有料とし、負担の公平化を図ってはどうか。

5. 現在の仕組みを見直すが無料配布袋の仕組みは維持すべき

- ごみ処理費用を上乗せした有料化の場合市民への負担は大きく、お金持ちの方がごみの量を気にせずごみを出すようになるのではないか。追加袋を配布する場合の必要理由をきちんと聞くなど、現在の無料配布の仕組みを見直し制度を維持すべきではないか。

6. 滞留袋の無駄の解消が必要である

- 毎年800万枚（年間4千万円）のごみ袋が家庭に滞留しているようだ。滞留袋の原因となっているごみ袋の無料配布は止めてごみ袋は自分で購入するようにしてもよいのでは。ごみ処理費用の上乗せのないごみ袋代の実費負担だけなら有料化とは思わない市民も多いはずである。
- 世帯人数にかかわらず基本袋だけを配布する考え方もあるが、世帯人員が違えばごみ量も異なるため市民から相当抵抗があると思う。

7. 有料化の導入時期について

- 一定量以上の袋については有料にして徐々にごみ処理にはお金がかかることを市民に定着させてはどうか。初めから全部有料化では市民から反発を受ける。
- 八尾市ではごみ袋の無料配布の期間が長く、いきなり全部の有料化は市民合意が得られない。最初は、追加袋は有料とする超過量有料制でごみ排出量の多い市民に負担を求め、次段階では全部のごみ袋の有料化のように段階的に有料化を実施すべきである。
- 一様に今まで無料のごみ袋を一律に有料化すると市民に混乱をまねく。
- 有料化は賛成だが、超過分だけの有料化を最初にして、次の段階に単純従量制にしてはどうか。
- 有料化するなら市民全体に対して有料化をすべきである。ごみ減量に頑張っている町会のごみ袋が無料でもらえ、何もしていないなら最初からごみ袋代を支払うようにすると、ごみ処理費をもらう人ももらわない人がいるとややこしく混乱する。

8. 町会を通じたごみ袋配布のメリットについて（町会のこれまでの役割の考慮）

- 高齢者の方への役員による各戸配布は喜ばれており、町会への残留に役立っている。
- ごみ袋の無料配布は町会の加入世帯の維持に役立っており、追加袋の有料化に留めるべきである。例えば、数千枚のごみ袋は町会に無料で配布し、不足するごみ袋は排出者が購入するようにして欲しい。
- 5種分別導入時に町会との協働でごみ減量を推進するため町会経由のごみ袋配布の仕組みを作った。有料化するとごみ袋はどこでも購入できるようになるが、町会のごみ袋の配布に関われなくなってしまう。八尾市の町会経由のごみ袋無料配布の歴史的経緯を踏まえ、無料配布を無くすのであれば自治振興委員会との協働のあり方についてきちんと議論しておく必要がある。
- 自治振興会としては、安易に無料袋の廃止は反対である。ただし、無料袋は残し追加袋の有料化についてはやむを得ない。
- 全て有料化にするとごみ袋を町会が配れなくなり、よほど理解のある人以外は町会を脱退してしまう。
- ごみ袋の町会経由で配布が町会とのつながりを確保すると言っても、ごみ袋の配布だけが町会とのつながりではない。ごみ袋はコンビニ等で購入するべきである。これにより、町会役員の作業負担が減ると思う。
- 町会未加入者の理由が全て納得できるものでもない。また、マンションまるごと未加入というところもある。今後震災時の対応等町会活動は必要である。八尾市ほど全局をあげて町会加入促進をバックアップしてくれているところはない。しかし、町会がごみ袋を配布しなくなれば町会を脱退する人も増えることが予想される。有料化になっても町会経由のごみ袋配布は残して欲しい。
- 町会経由のごみ袋の配布には引換券方式もあるが、高齢者がごみ袋を外に買いに行けないということもあり、ごみ袋配布の方が喜ばれる。一定量までは無料の方式の有料制であればごみの少ない高齢者はごみ袋を買いに行かなくて済む。
- 有料化にして町会経由でごみ袋を配ろうとすると、会計処理や在庫を町会で抱える等町会長の負担が大きくなるのではないか。

9. 町会加入者と未加入者の差別化について

- 市役所でごみ袋を受け取る場合は分別方法の講習を受けるなど、町会加入者と市役所でごみ袋を受け取る者とは差別化を図るべきである。
- 町会未加入の人にはそれなりの理由があるので、また、未加入者への葉書送付が160万円程度であれば、町会加入者と未加入者の差別化をしてはいけない。

10. ごみ袋代だけを徴収する方式について

- 1枚5円のごみ袋代だけを徴収する方式は市の収入は増えてもごみ減量の効果がないのでは。

11. 不法投棄について

- ごみ袋代の負担程度ならよいが、ごみ処理費用までを含めた有料化になるとごみの不法投棄が増える。ごみの有料化にあたってはごみ処理に多額なお金を要していることを周知徹底する必要がある。

12. 軒先収集と拠点収集について

- 収集の効率化からいうと拠点収集であるが排出ルールの徹底からは軒先収集である。基本的には軒先収集になっていく方がよいと思う。

13. その他（審議会の進め方）

- ごみ袋のみの有料化なのか、ごみ処理費用を負担する有料化なのか、どちらの有料化なのかをはっきりして議論をするべきである。
- そろそろ有料化を導入するのかもしれないのに絞った議論をして結論を出すべきである。現在はごみ袋が無料なのでごみが減らない。有料化すれば必ずごみが減量されるようになると思う。
- 高齢化社会に町会の担う役割はたくさんある。この審議会でごみの問題だけで町会の加入率等の問題を議論するのは誤りである。八尾市全体の問題として考えていくべきである。
- 高齢者の対応については「ふれあい収集」の制度の中で考える方法もある。